

根治性の高い低侵襲な治療法として認知されるようになった放射線治療。

「がん治療の三本柱を存じでしようか?」

ひとつは『手術療法』、次に『化学(薬物)療法』、そして『放射線療法』の三種類。日本では、これまで『手術』が、がん治療の中心でしたが、近年は化学療法や放射線療法が進歩

したため、がんの種類やステージ(病期)によつては手術と変わらない効果が認められています」と語るのは放射線科(治療)の平塚純一教授。

放射線治療の専門医として、当科のチーム医療を「五年にわたって牽引している。

放射線療法を簡単に説明すると、がんの病巣部に放射線を照射して、がん細胞を死滅させる局所療法。最近は治療前の診断技

術や照射方法の進歩によって、がんの大きさや位置を正確に測り、その部分だけに集中

的に照射することが可能になつたため、効果は格段に向上している。そのため、がんの根治的療法は「手術」だけではなくなつた。

「私が当科で放射線治療を始めてから二十五年。その間に放射線治療を選択する患者さんの数は四倍になりました。かつては除痛などの対症療法中心だった放射線治療が技術の進歩によって、より根治性の高い低侵襲な治療として認知された結果です。とはいへ放射線治療ですべてカバーできると思つていません。

患者さんの年齢や性別・合併症の有無等を考慮して、場合によつては、他の治療を組み合わせる(集学的治療)こともあります」。

## 医療 >> vol.37 最前線 放射線科(治療)

*Report!*

# 患者さんを技術と笑顔で勇気づける

by 川崎医科大学附属病院

## 次世代の粒子線療法への取り組み。 さらに安全な治療法の確立へ。



穏やかな笑顔と語り口が印象的な平塚教授。出身は京都。岡山で暮らすようになって25年を迎えるとのこと。「岡山はいい街ですね。都会過ぎず、田舎でもない。魚はおいしいし、水もうまい。『ぼっけ~』とか『やっちはねえ~』とか、岡山弁も上手に使っていますよ」と笑う。以前は渓流釣りやスキー、ランニング(小豆島マラソン出場経験も)を楽しんでいたが、最近は時々嗜むゴルフや旅行が息抜きとか。

平塚 純一 教授  
Junichi Hiratsuka

■認定医・専門医・指導医  
日本医学放射線学会専門医、日本放射線腫瘍学会放射線治療専門医  
■専門分野  
前立腺がん、頭頸部がん、がん中性子捕獲療法

専門医としての豊富な経験からチーム医療の重要性を知る平塚教授。院内各科および他医療機関との協同によるチーム医療を実現。悪性腫瘍の治療に関するセカンドオピニオン外来も開いている。



普段から「副作用等でナーバスになりがちな患者さんを少しでも勇気づけるよう心がけている」という平塚教授。確かにキャラリアと包み込むような笑顔が頼もしい。

お問合せ

川崎医科大学附属病院  
086-462-1111

<http://www.kawasaki-m.ac.jp/hospital/>